

都市再生整備計画(第10回変更)

かなない かんがいしゅうへん
関内・関外周辺地区

かながわ よこはまし
神奈川県 横浜市

平成25年10月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	関内・関外周辺地区	面積	600 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度				

目標

新市庁舎整備を核として、都心機能・都市基盤の再整備、歴史的資源の活用による観光振興などにより、にぎわいの創出や回遊性の向上を図り、関内・関外周辺地区の活性化を促進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

関内・関外周辺地区は、開港以来横浜の中心地として発展を担ってきた地区であり、県庁、市役所などの官公庁施設、企業の本社、支社が立地する都心地区、そして、全国的に知名度の高い元町や中華街、馬車道などの商業地区が形成されています。同時に、歴史的建造物が点在するなど歴史・文化を生かした魅力ある景観が形成されている観光地区でもあります。しかしながら、近年、横浜駅周辺やみなとみらい21地区における整備の促進により、企業の地区外への移転が増加するなど地区のにぎわいが低下しつつあります。さらに、本市では新市庁舎整備を検討しており、今後の関内・関外地区の街づくりは新市庁舎整備と一体的にすすめていく必要があります。平成20年作成の「横浜都心部ランドデザイン」にて示した関内・関外地区の目指すべき方向、ならびに豊富な観光資源、横浜を象徴する景観をもつ山手地区の維持・発展に向け、都心機能・都市基盤の再整備、歴史的資源の活用による観光振興、にぎわいの創出や回遊性の向上による活性化を促進することが求められています。

○参考：第1期事後評価「今後のまちづくりの方策」

だれもが移動しやすい歩行者環境とネットワークの構築を図るため、歩行者空間のバリアフリー化や自転車と歩行者の分離に対する取組が必要である。また地区内の重要な観光資源である歴史的な建造物、港、公園を活用するための取組として、観光客に対する利便性や快適性の向上のための案内サインの更なる充実や、沿道環境の改善と合わせ、観光資源を維持していくための取組として歴史的建造物の保存活動への助成なども検討していく。更に点在する観光資源相互の連携に対する取組も必要である。また、文化芸術活動により都市機能の多様化を図り、都心部の活性化を実現させる取組として、活動拠点整備のための建物改修やバリアフリー対策等に対する助成事業についても検討していく。

課題

- ・業務や商業における事務所数・従業者数の減少
- ・関内駅を中心とした一体感のある駅前空間が未整備
- ・歩きやすい歩行者環境整備が不十分
- ・初黄地区における元違法風俗店舗の存在
- ・老朽化したビルが多く存在

将来ビジョン(中長期)

○関内地区は、横浜開港の歴史と都心の最初の核として今後も発展していくことを目指す。
特に、「行政機能」、「教員、文化、芸術、スポーツ」、「特色ある専門店」、「歴史的建造物や街並み散策などの観光」の機能を向上させる。
○関外地区は、多様性、大衆性のある横浜独自の生活文化を育んできた地区として、文化、業務の伝統を受け継ぎつつ、魅力的なまちを目指す。
特に、「特色ある専門店」、「地域密着型商店」、「都市型住宅」の機能を向上させる。
○山手地区は、開港以来の歴史的建造物など、景観資源も多く、横浜を代表する観光地区となっている。老朽化・機能低下した都市基盤施設を再整備しつつ、横浜らしい都市景観の維持・発展を目指す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅乗降者数	人/日	JR(関内、桜木町、石川町)、みなとみらい線(元町中華街、日本大通り、馬車道)、市営地下鉄(板東橋、伊勢佐木長者町、関内、桜木町)の1日平均乗車人員数の合計	都市基盤の整備や観光振興、にぎわいの創出により来街客数が増加する。	458千人/日	H19年度	480千人/日	H25年度
山手の公開西洋館の入館者数	人/年	山手地区の洋館(ブラフ11番館、外交官の家、テニス発祥記念館、ペーリックホール、エリスマン邸、山手234番館、イギリス館、山手111番館)の年間来館者数の合計	山手本通り改修による、山手地区公開洋館の利用者数が増加する	726,864人/年	H19年度	750,000人/年	H25年度
初黄地区小規模営業店舗再利用件	件数	小規模営業店舗の再利用転換数	地元、県警、行政の環境浄化の取組により、大半が現在閉鎖している初黄地区の旧違法小規模店舗の土地・建物の再利用をすすめ、新たなにぎわいを創出する。	73件	H19年度	100件	H25年度

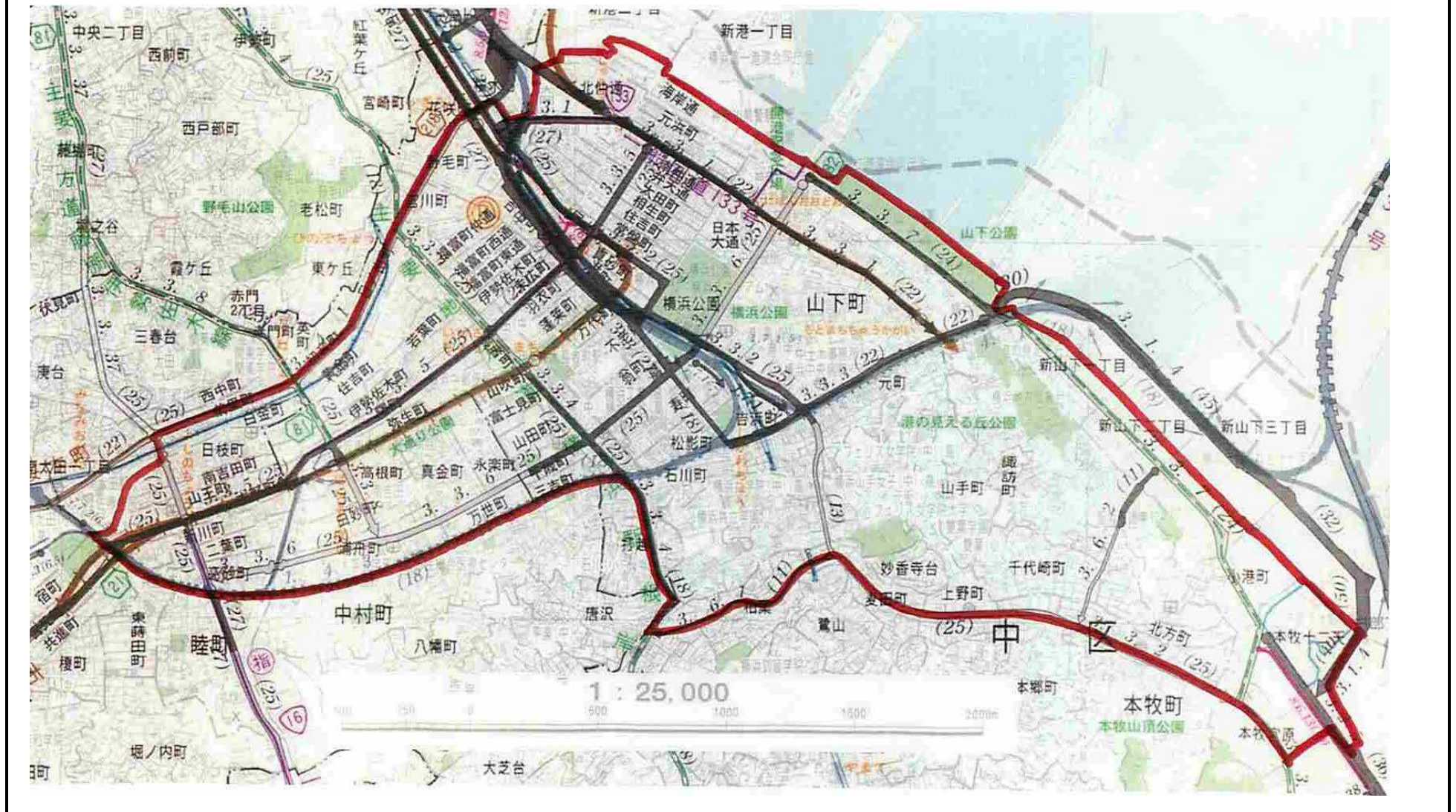
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・人にやさしい歩行者空間整備 ・回遊性を高める歩行者ネットワーク整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道山手元町線電線共同溝整備(道路) ・山手通り歩道整備(高質空間形成) ・関内駅北口駅前(マリナード地下街) ・市道万国橋通第7006号
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的資源を生かした景観形成、観光振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストロングビル外観復元工事(地域創造支援) ・カトリック横浜司教館別館外観改修(地域創造支援) ・綜通横浜ビル
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化・機能低下した都市基盤施設の再整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜公園 ・本牧十二天緑地 ・大通り公園 ・港の見える丘公園(拡張)
<p>その他</p>	
<p>・違法風俗店の閉鎖による環境浄化、まちの再生を目指す「初黄・日ノ出町地区」において、京急高架下の利用、小規模店舗の転用・再生に向けた活用調査を実施する。 調査結果にもとに、新たな利用促進・活用を図り、同地区の新たなにぎわいを創出する。</p>	

都市再生整備計画の区域

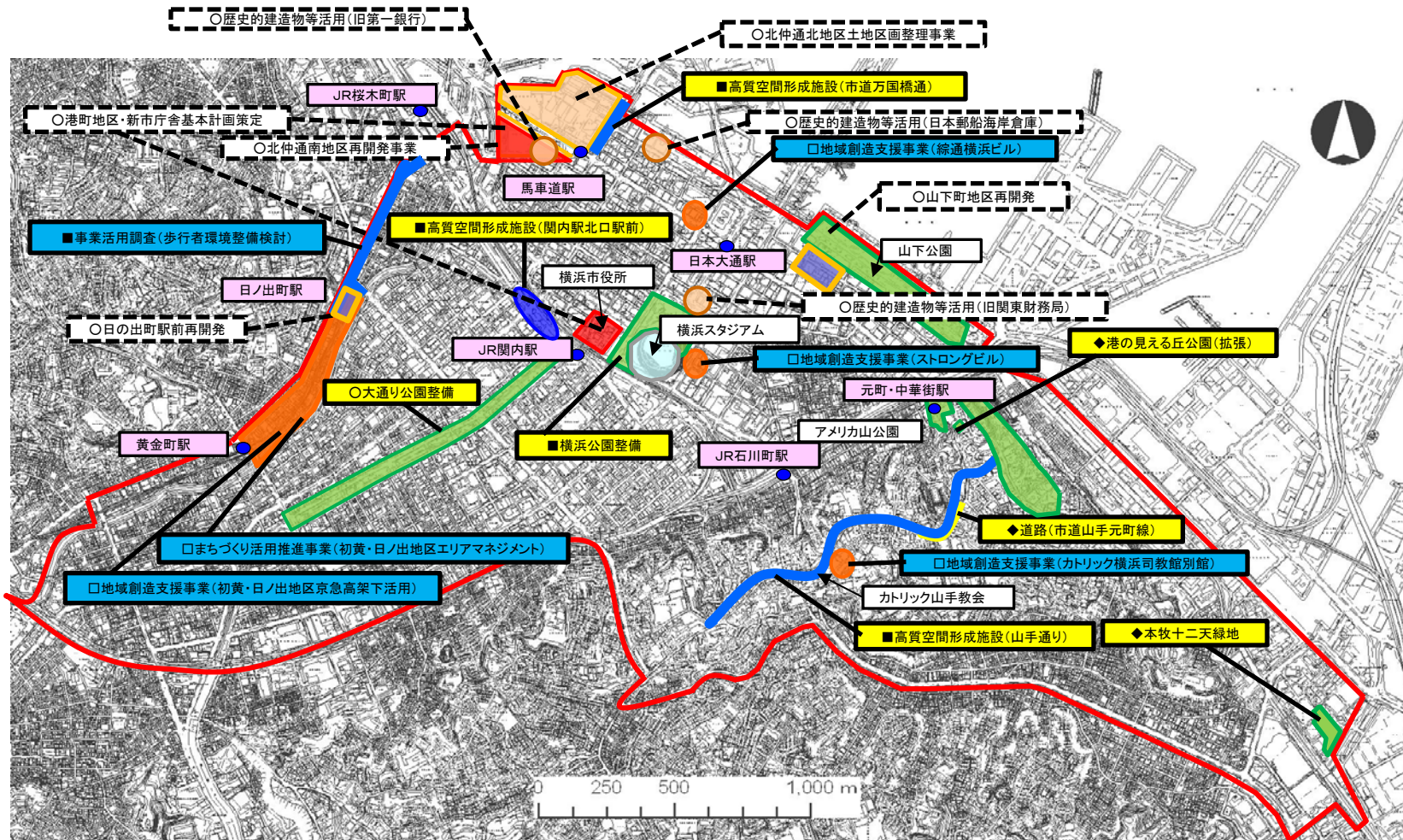
<p>関内・関外周辺地区(神奈川県横浜市)</p>	<p>面積 600 ha</p>	<p>区域</p>	<p>中区、南区の一部</p>
---------------------------	------------------	-----------	-----------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



関内・関外周辺地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	新市庁舎整備を核として、都心機能・都市基盤の再整備、歴史的資源の活用による観光振興などにより、にぎわいの創出や回遊性の向上を図り、関内・関外の活性化を促進する。	代表的な指標	駅乗車人員 (人/日)	458千人/日 (H19 年度) → 480千人/日 (H25 年度)
			山手の公開西洋館の入館者数 (人/年)	726,864人/年 (H19 年度) → 750,000人/年 (H25 年度)
			初黄地区小規模営業店舗再利 (件数)	73件 (H19 年度) → 100件 (H25 年度)



凡 例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業